

市 勢 概 況



<市章>

明治戊辰の戦役でその名を馳せた会津藩の旗印であり、
又、白虎隊士など会津藩士の肩章であった「曾」の字をデ
ザイン化したもの。会津若松市の歴史と伝統の重みを表す
とともに、市民の融和を表徴している。

昭和2年4月26日制定

● 自然

- 1 本市は、福島県の西部会津盆地の東南に位置し、東京から約 300km、県都福島市まで約 100kmの距離にあります。
東は猪苗代湖、西は宮川を境とし、南は布引山・大戸岳を境とした諸山岳が壁をなし、北は日橋川を境としています。
- 2 市域面積は 382.99km²で、市域のうち約 45%が山林であり、東西に 20.5km、南北に 28.9kmとほぼ縦長の地形をなしています。
地域の北西にある市街地は、東から西にゆるやかな傾斜をなし、中心を湯川が廻流しています。
地質は、主に石英安山岩、沖積層からなっています。
- 3 気象状況は、内陸盆地特有の複雑な気候を示し、冬期は日本海側の気候の影響を受け、好天が少なく降雪量も多い方です。夏期は太平洋側に近い気候となりますが、春秋にはこれに内陸型の気候条件が加わり、日中と夜間の気温差が激しくなっています。

● 歴史

- 1 市の歴史は古く、縄文時代からの遺跡が多く発掘されており、それは大塚山古墳にもみられます。また、古事記、日本書記などにも「相津」は記されており、東国と北国の出会う重要な接点として位置づけられています。
- 2 城下町としては至徳元年(1384 年)葦名直盛が「小高木」(現在の若松城跡の地)に館を築き、「東黒川館」と称したのがはじまりといわれています。
蒲生氏郷が文禄元年(1592 年)に城を改修して鶴ヶ城と称し、町割を整備して「若松」と改称しました。
- 3 その後、松平氏の祖である保科正之が就封して以来、幕府を頂点とする幕藩体制がかためられ会津藩が確立されました。
この間、教育文化、産業経済が著しい発展を遂げ、特に漆器、酒造などの伝統的地場産業の振興がおこなわれましたが、明治戊辰の戦いを機に会津藩はなくなりました。
- 4 明治維新後、大町と馬場町を中心とする町人の町はほとんどそのまま残りましたが、郭内にあった武家屋敷の大部分は荒廃しました。
明治 2 年に若松県がおかれ、明治 9 年に福島県に合併、明治 32 年 4 月に「若松町」から「若松市」となり、昭和 26 年に町北村、昭和 30 年に一箕村など 7 村が合併し、市名が「会津若松市」と改められました。また、平成 16 年に北会津村と、平成 17 年に河東町と合併し、新しい「会津若松市」が誕生しました。
- 5 このように本市は、県下最大の城下町として発展してきた歴史と伝統のあるまちです。維新後現在に至るまでも、会津地方の経済、社会、文化などの中核都市として今日に至っています。

● 人口・世帯の移りかわり ※住民基本台帳による10月1日現在(令和7年度は4月1日現在)

年 次	人口総数(人)	世帯数(世帯)	年 次	人口総数(人)	世帯数(世帯)
大正元	39,575	5,931	平成2	119,080	39,661
9	45,492	6,977	7	119,640	41,995
14	45,402	7,801	12	118,118	43,347
昭和5	43,996	7,957	17	122,071	46,353
10	46,083	8,515	22	126,586	49,791
15	49,824	9,313	27	122,871	51,076
20	56,217	11,405	29	120,746	51,358
25	60,034	12,589	30	119,680	51,590
30	97,885	18,943	令和元	118,663	51,889
35	99,546	21,273	2	117,190	52,028
40	102,239	24,623	3	115,840	52,161
45	104,065	27,744	4	114,520	52,360
50	108,650	31,402	5	112,701	52,282
55	114,528	35,931	6	111,035	52,351
60	118,140	38,078	7	109,798	52,166

付 記：明治32年 市制施行、若松市となる。

昭和12年 町北村一部合併。昭和26年町北村合併。

昭和30年 高野村、東山村、門田村、神指村、一箕村、大戸村、湊村を合併。
さらに本郷町小谷地区を合併し会津若松市となる。

平成16年 北会津村合併

平成17年 河東町合併

※法改正により平成24年8月1日現在の住基人口より値に外国人の住民の方の数も含まれております。

● 一般会計予算・決算の推移

単位：千円

年 次	予 算 額		決 算 額	
	当初予算額	最終予算額	歳入額	歳出額
27	48,977,000	52,188,894	51,764,888	49,408,504
28	46,857,000	50,010,376	49,658,046	47,608,991
29	48,687,000	50,787,891	52,729,810	50,640,514
30	48,625,000	51,490,978	51,588,388	49,429,143
令和元	47,742,000	49,363,305	50,725,832	49,025,945
2	48,559,000	66,113,090	64,870,360	62,309,520
3	47,393,000	53,793,676	56,989,761	52,649,776
4	52,488,000	59,680,545	60,300,005	56,788,478
5	49,937,000	56,480,023	55,506,554	52,463,323
6	54,435,000	60,795,439	—	—
7	55,787,000	—	—	—

会津若松市民憲章

前文

会津若松市は、会津の中心都市としてながい歴史と伝統につちかわれて発展してまいりました。

会津若松市民は、明治戊辰百年を迎えて、先人の偉業をしのび、よりよい郷土を築くために平和・創造・繁栄の三つの誓いをたて、市民の歩む道しるべとして市民憲章を制定しました。

私たち市民は、責任と誇りをもった市民意識の上に立って、会津若松市を民主的な近代都市として大きく前進させるため、具体的目標を定め、心をあわせて、これを実践するよう努めるものがあります。

一、 親切をつくし 住みよいまちを つくりましょう	一、 きまりを守り 明るいまちを つくりましょう	一、 健康で働き 豊かなまちを つくりましょう	一、 環境をととのえ 美しいまちを つくりましょう	一、 自然と文化財とを愛し ゆかしいまちをつくりましょう	一、 教養を高め 文化のまちを つくりましょう
------------------------------------	-----------------------------------	----------------------------------	------------------------------------	------------------------------------	----------------------------------

昭和43年5月3日制定

市の花



「あおい」(タチアオイ)
昭和42年8月3日制定

市の鳥



「かっこう」
昭和59年10月1日制定

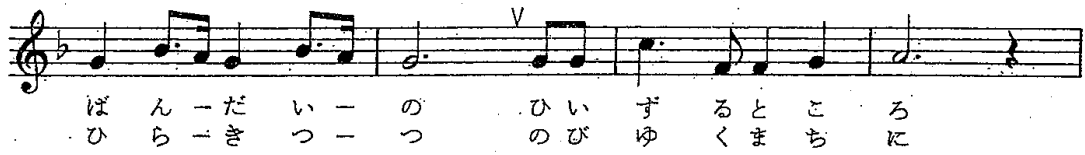
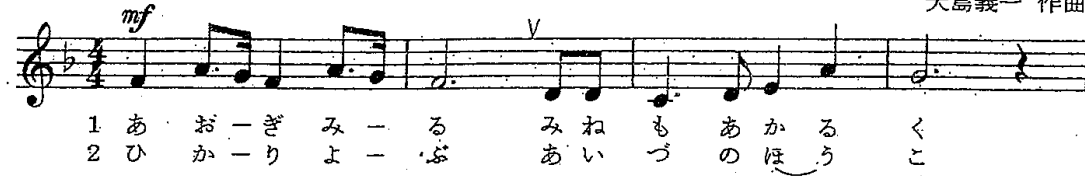
市の木



「アカマツ」
昭和54年9月22日制定

会津若松市民の歌

菅野陸郎 作詞
大島義一 作曲



一、仰ぎみる 嶺も明るく
磐梯の 秀ずるところ
古城なる 花は薫りて
美しき 自治のあけぼの

会津若松市 ともに誇らん

二、ひかり呼ぶ 会津の宝庫
拓きつつ 伸びゆく街に
新しき 希望は燃えて
睦み合う 民のほほえみ

会津若松市 ともに興さん